

2 各年齢の活動事例

(1) 0歳児

0歳児 活動事例 1

台に上って遊ぼう (7月)

観点 (生活)

視点 (健康 〜げんきいっぱい〜 運動)

【遊びの経過】

坂道やでこぼこ道、芝生の上など、バランスをとりながらしっかりと歩くようになってきた。高い所に上ろうとチャレンジする姿も見られるようになった。

【ねらい】

いろいろな台に上ったり下りたりして、十分に体を動かすことを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★階段やジャンプ台、ふわふわ坂道などの台を安全に配置する。

★いろいろな質感のある台を用意する。

○好きな台に上る。

触ってみたいな。
【好奇心】

上れるかな。
【興味・関心】



(こんな台もあるよ。) 上ってみよう。
【意欲】【好奇心】

■好きな台を自分で選べるように、いろいろな形や材質の台を用意し、上ってみせる。

■安全に遊べるように、子どもの動きに応じて立つ位置を変える。

■子どもが安心して体を動かせるように台の上って見せ、一人一人に応じた援助をする。

○台から下りる。

ジャンプしたい。【チャレンジ】



やったあ。(できたね)
【満足感】

おしりから下りたよ。
【満足感】

■十分に体を動かせるように手を添えたり、子どもが決めた下り方を認めたりする。

■ジャンプして下りようとする子どもには、危険がないように両手を持ち、声をかける。

○いろいろな台を何度も上ったり、下りたりする。

やったね。
【満足感】



うまく上れない。でもやってみよう。
【チャレンジ】

何回もやってみよう。
【チャレンジ】

どうやって下りたらいいかな。【意欲】

■さらに体を動かすことができるように、バランスをとりながら上り下りするふわふわ坂道にも挑戦するよう促す。

■満足感を味わえるように、いろいろな台に挑戦したことを一緒に喜ぶ。

*吹き出しの()内は、保育者の言葉かけ

【評価】

・階段やジャンプ台、ふわふわ坂道などの上り下りに繰り返し挑戦することを楽しんでいる。

0歳児 活動事例2

自分でできると楽しいな（8月）

観点（生活）

視点（生活習慣 へみにつけようへ）

【遊びの経過】

つかまり立ちや伝い歩き、歩行など自ら動けるようになり、いろいろな場面で自分の意思で動くことが多くなってきた。行動範囲が広がり、活動量も増えてきた。食事では、手づかみをしたりスプーンを使ったりするなどして、意欲的に食べるようになってきた。

【ねらい】

自分が食事をする場所で意欲的に食べようとする。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

- ★お腹がすくように活動量を確保する。
- ★食事の場所を決めておく。

○自分が食事をする場所に座る。

ぼくのおしぼりだよ。【意欲】



（手がふけたかな。）
ふけたよ。【意欲】

お腹がすいた。
（どんなごちそうかな。）
【期待】



いただきます。【楽しみ】

- 自分の食事の場所を見つけるように、おしぼりやエプロンを置く。
- おしぼりで手を自分でふけるように見守り、不十分な時は仕上げぶきをする。
- 食事の姿勢が整うように必要に応じて手を添える。

○食事をする。

（おいしそうだね。）
わたしも食べる。
【意欲】



おいしいな。
【満足感】

食べるよ。
（おなかがすいたね。）
【意欲】



- 自分の食べ方で意欲的に食べている姿を認める。
- 自分から食べることができるよう、友達の様子を知らせたり援助したりする。
- こぼしながらも自分から意欲的に食べたことを認める言葉かけをする。
- 満腹感を伝えられるように、子どもの様子を見て無理強いせず、言葉にして問いかける。

先生、見て。食べるよ。
（一人で食べられたね。）
【意欲・信頼感】



スプーンも上手に使えるよ。【意欲】

もう、ごちそうさま
しようか。【見通し】



もうお腹がいっぱい。
【満足感】

おさらびかぴか。
【満足感】【喜び】

* 吹き出しの（ ）内は、保育者の言葉かけ

【評価】

・自分が食事をする場所で、自分が食べやすい方法で意欲的に食べている。

0歳児 活動事例3

自分で選んだおもちゃで遊ぼう（7月）

観点（ 人とのかかわり ） 視点（ 協同性 一緒にやろうよ ）

【遊びの経過】

特定の大人による個へのかかわりを大切にすることで情緒が安定してきた。また、いくつかのおもちゃのなかから自分で選べるようになってきた。

【ねらい】

自分でおもちゃを選んで遊ぶことを楽しんだり、相手の遊びに興味をもったりする。

【〇幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★安心できる空間、安心して過ごせる保育者のそばで、自ら遊びだせる雰囲気をつくる。

〇ふれあい遊びを楽しむ。

くるぞ、くるぞ。【期待感】



（楽しいね。）
もっと、もっと。
うれしいな。
先生大好き。

【安心感】
【満足感】
【信頼感】

（もう1回ね。）
わあ、もう1回。
【満足感】

- ふれあい遊びをすることを身振り手振りで伝える。
- ふれあい遊びを繰り返し楽しめるように表情を観察し、要求に応じていく。
- しばらく遊び、満足そうな表情を確かめてから終わりにする。

〇自分で選んだおもちゃで、さまざまに遊ぶ。

楽しいな。【夢中】【没頭】



友達は何してるのかな。
【人とのかかわり】



これで遊びたい。【意欲】

ぼくもやりたい。
【意欲】

今、わたしが乗ってるの。
【人とのかかわり】【葛藤】

★自ら遊びだせるように、いろいろなおもちゃを準備しておく。

- 自ら興味があるものに近づき、遊びだせるよう見守る。
- 遊びが広がるように保育者も一緒に遊びを楽しむ。
- 友達の遊びを知らせる言葉をかけ、相手のしていることに気付き、興味をもてるようにする。
- 「何が見えるかな。」「不思議だね。」など、子どもの仕草や気持ちを言葉に変え、興味・関心を引き出す。

* 吹き出しの（ ）内は、保育者の言葉かけ

【評価】

- ・自分の選んだおもちゃで遊んでいる。
- ・相手のしている遊びを見たり、まねようとしていたりしている。

0歳児 活動事例4

たいこをたたこう（2月）

観点（ 興味・関心 ）

視点（ 表現 へつたえたいな しりたいたいな ）

【遊びの経過】

音楽が聞こえてくると、体全体で楽しんでいる。最近では太鼓を打つことに興味・関心が高い。そこで、表現遊びをより楽しめるように太鼓のばちに絵の具をつけることにした。

【ねらい】

太鼓を打つことで自由に表現して楽しむ。

【〇幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★思う存分遊べるようにシートを敷いておく。

〇先に絵の具がついたばちで太鼓を打つ。



あれ、色がつくよ。

【興味・関心】

よし、やってみよう。

【好奇心】

■太鼓を打つことがより楽しめるように、いつも遊んでいるばちの先に絵の具をつける。

■周りの様子をうかがいながら太鼓を打つなど、自分で表現しようとする姿を認める。

〇太鼓のばちを自由に動かして打つ。

いっぱい、打ったよ。

【表現】

見て、見て。

【自己発揮】



小さい音、大きい音。

【意欲】

【興味・関心】

■腕を小さく動かしたり、大きく動かしたりして、楽しんでいる姿を見守る。

■ばちを自由に動かせるように、「上手だね。」「うれしいね。」など子どもの表現を認める言葉をかける。

★体全体の動きを引き出すために子どもの好きな曲をかける。

〇音楽に合わせて体を動かしながら太鼓を打つ。

ドンドン。

【表現】

この歌、知ってる。

【楽しさ】

【興味・関心】

おもしろい。

【満足感】



もっとやりたい。

【意欲】

■歌ったり手拍子をしたりして、楽しい雰囲気づくりをする。

■自由に表現したことを認め、次の意欲につなげる。

【評価】

・自由に太鼓をばちで叩いて色をつけたり、曲に合わせて動いたりすることを楽しんでいる。